

企業を牽引する計算科学高度技術者の養成

実施機関：神戸大学（総括責任者：福田 秀樹）

実施期間：平成 22～26 年度

プロジェクトの概要

問題解決のための計算機シミュレーションの本質や有用性を理解し、様々な研究分野で計算機シミュレーションを活用できる人材の裾野を拡大し、兵庫県地域はもとより日本全国の企業で計算科学を先導できる人材を育成・輩出することが、本社会人教育の主たる目的である。企業からの受講者はそれぞれ異なるスキルを持ち、教育開始時の知識レベルも異なれば、それぞれの受講者の達成目標も異なる。そこで、受講者個人個人に最適なテーラーメイドの教育カリキュラムを提供する。いつでもインターネット経由で質問が可能なプログラム相談室の設置など手厚い指導体制で人材育成を目指し、企業の研究開発に新しい風を吹き込むものである。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
S	s	s	a	a	a	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

スーパーコンピュータ「京」が理研に配置され、神戸医療産業都市の整備が進んでいること等を背景とし、テーラーメイドの教育カリキュラムの実施により地域の高いポテンシャルを有効に利用した計算科学高度技術者の育成が効果的に行われ、目標数を大きく超える養成修了者を輩出しながらスーパーコンピュータの新たな活用事例を生む基盤の構築や地元の中小企業の人材育成が図られていることは高く評価できる。今後は、ICT（情報通信技術）を利用した製造業発展のためにも中小企業への展開をより一層積極的に行うとともに、将来的には世界的拠点となることを期待する。

- ・**目標達成度**：養成修了者数は目標 100 名に対して 161 名と大きく上回っており、また、15 回の遠隔インタラクティブ講義参加者 239 名、出前講義参加者 41 名となり、所要の目標を達成したこと、さらにプロジェクトの過程で構築されたカリキュラムの骨組みにも今後の発展性が期待されることは、高く評価できる。

- ・**人材養成手法の妥当性**：基礎コースは中小企業の技術者でも「理解しやすいカリキュラム」として非常に有効であり、また、応用コースにおける個々人に即したテーラーメイド教育は現場のニーズに即した実践力を養うだけでなく、計算機の新たな可能性を導く上でも有効な手法である。遠隔インタラクティブ講義の開発も、社会人を対象に学びを広げる上で重要なアプローチであることなど、人材養成手法は高く評価できる。

- ・**実施体制・自治体等との連携**：計算科学振興財団といった関係機関との連携のみならず、自

治体が広報、大学が教育という明確な役割分担、効果的な連携の下で事業が協働して進められたことは評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：多くの企業から受講者が参加していることに加えて、応用コースの成果が共同研究にまで発展していることなどは、遠隔インタラクティブ講義が全国への波及が既に始まっていることなどとともに、本ユニットの有効性を示すものとして評価できる。

・**継続性・発展性**の見通し：本プロジェクトを契機に神戸大学内に「計算科学教育センター」が設立され、事業の継続が担保されていることは評価できる。今後は、ICT を駆使した次世代型製造業の育成に貢献することを期待する。

・**中間評価の反映**：サイバーセキュリティ科目を導入するとともに、中小企業の技術者向けに初心者にも理解できる内容に改善するなど、中間評価での指摘に対して適切に対応している。